

富士山の植物

富士山は火山であること、山の歴史が新しいこと、独立峰であることなどから、他の山には見られない独特的な生態系を持っています。そのため青木ヶ原樹海や山中湖のハリモミ林などは、天然記念物に指定されています。

植物には、それぞれ生育に最適な温度があります。富士山は標高が高く連続した斜面が続いており、標高が上がるにつれ温度は低くなっています。それにともなって標高の低い場所から高い

オンタデ

富士山の森林限界からその上部のスコリア堆積物上で最も多く、大型になるので目立つ植物です。地上に出ている部分はごくわずかで、大部分は地下にあります。成熟した株では根は3m以上になり、深いところの水を利用することができるので、スコリアの上でも生育できます。良く観察すると、株により雄花をつける雄の株と雌花をつける雌の株があります。



カラマツ

日本で唯一の落葉針葉樹です。貧栄養で乾燥した場所でも生育できるため、富士山の亜高山帯で遷移の最初に出てくる植物です。そのため、富士山の森林限界を構成している種のひとつです。明るい環境では非常に良く育ちますが、暗い環境が全く駄目なため、一度カラマツ林が出来上がると、その後にはカラマツの稚樹は全く見られなくなります。富士山の森林限界付近では、上に伸びられず、ハイマツのようにテーブル型になったカラマツが見られるのも富士山の特徴です。



ハクサンシャクナゲ

亜高山帯に生える常緑低木です。シラビソなどの針葉樹の下の暗い環境には少なく、道路脇や落葉樹林の下など比較的明るい環境を好みます。花は大きく、たくさん咲くので、花の時期は非常に見事です。ハクサンシャクナゲは富士山の北斜面ではごく一般的な植物ですが、南斜面では非常に稀でほとんど見ることができません。逆の例としてコタヌキランがあげられます。



ブナ

山地帯（冷温帶）を代表する樹種のひとつです。積雪量の多い地域に多く見られる植物です。したがって、積雪の少ない富士山にはそれほど多くありません。富士山北斜面では、大室山の北斜面の通称ブナ広場付近には大木も見られます。ブナ広場は約3500年前の大室の噴火後、貞觀の噴火の影響を受けずに遷移が進んだ林です。ブナは、山地帯の極相林である落葉広葉樹を形成する種の一つです。



(豆知識) 富士山と高山植物

富士山は氷河期以降に形成された山でまだ若く、一度も氷河期を経験していません。現在南アルプスなど多くの山で見られる高山植物は、氷河期に標高が低いところに分布していたものが暖かくなり、高山帯に残ったものです。したがって、富士山が出来上がったときには、高山植物は全くなかったと考えられています。

富士山クイズ

Q3: 富士山には溶岩樹型以外にも数多くの溶岩洞穴があります。溶岩洞穴はその形成要因によって様々なに分類されていますが、「溶岩水蒸気噴気孔」とはどれ？

①プリスター ②スパイアクラル ③プレッシャーリッジ（答えは10ページ）

場所に向けて、植生が変化していきます。この植生が変化していく様を『植生の垂直分布』と呼びます。

また、意外に知られていませんが、富士山の三合目から下の場所は、青木ヶ原などの一部の地域を除き、人の手により植林されたり、市街地などに変えられてしまい、富士山のもとの自然はほとんど残っていません。

イワツメクサ

富士山の森林限界から上部は、砂礫の移動、積雪、乾燥、貧栄養などとても厳しい条件です。このような場所では限られた植物しか生育できません。イワツメクサもそのような場所に生える植物のひとつです。他にイワハタザオ、オンタデ、ミヤマオトコヨモギなどが代表選手です。イワツメクサは、少なくとも2012年には、富士山山頂でも確認されました。今後も分布を広げる可能性がある植物です。



オンタデ、
イワツメクサ、
ムラサキモメンヅル、
フジハタザオ、
ミヤマオトコヨモギ、
イワスゲ、
ミヤマヤナギ 他

(森林限界)

2,500m

■亜高山帯■ 針葉樹林 落葉広葉樹林

1,600m

■山地帯■ 落葉広葉樹林 常緑針葉樹林 草原、植林地 ゴルフ場、耕作地 市街地

800m
(河口湖面 830m)

※生息及び繁殖範囲は
記載の区域に限りません。



カラマツ、シラビソ、
オオシラビソ、コメツガ、
ハクサンシャクナゲ、
ダケカンバ、ミヤマハンノキ、
コケモモ、カニコウモリ、
コイチヤクソウ 他



ブナ、イヌブナ、ミズナラ、
コナラ、ヒノキ、ツガ、
モミ、アカマツ、ソヨゴ、
フジザクラ、ヤマブドウ、
サルナシ、ハリモミ、
ススキ、オミナエシ 他



シラビソ

亜高山帯の極相種で、常緑針葉樹です。カラマツとは逆に暗い環境でも生きていけます。カラマツ林のような比較的暗い林床でも、シラビソの稚樹はすくすく育ちます。コメツガやオオシラビソなども同じような場所に生えています。木が倒れるなどして少し明るくなった林床には、シラビソやコメツガの稚樹が苗床のように生えます。暗い林床ではコケが多く生えており、他の植物は多くありませんがミヤマフタバラン、コイチヤクソウ、カニコウモリなどが見られます。

ダケカンバ

カラマツ同様、貧栄養で乾燥した場所でも生育できるため、富士山の亜高山帯で遷移の最初に出てくる植物の一つです。カラマツが主に尾根に出てくるのに対して、ダケカンバは主に谷部に出現するのが特徴です。山地帯（冷温帶）では同じ仲間のシラカンバ（白樺）が明るい環境に出現します。富士山では山地帯と亜高山帯の境である標高1,600m付近でダケカンバとシラカンバがすみ分けています。

ヒノキ

青木ヶ原樹海を代表する樹種の一つです。材は堅く腐食に強いため、有用な樹種としてよく植林されています。青木ヶ原はヒノキなどの常緑針葉樹が優占しており、他にツガ、トウヒ、ゴヨウマツなどが見られます。青木ヶ原樹海は遷移の途中で、現在はヒノキを代表する常緑針葉樹が優占していますが、それ以前は、遷移初期のアカマツ林が存在していましたと言えられています。今後、土壌が十分に形成されるとブナ、イヌブナ、ミズナラ、コナラなど落葉広葉樹の林になると考えられています。

現在、富士山に見られる高山植物は、氷河期の後に他の高山から種子が飛んできて、富士山の厳しい環境下でも生き抜くことができた植物です。したがって、富士山は高山植物の種類が非常に少ないのが特徴です。日本の高山帯に広く分布しているハイマツが富士山に存在しないのは、種子が富士山にたどり着かなかつたことが原因です。カムチャッカの山では、富士山と同様の厳しい環境でもハイマツはたくましく生育しています。

富士山クイズ

A2:(1)①、(2)②、(3)③、富士五湖は位置も、深さも、大きさ異なります。最も深いのは本栖湖で、最も広いのは山中湖です。また、山中湖は富士五湖の中で最も高い場所に位置しています。逆に最も低い位置にあるのは河口湖です。西湖、精進湖、本栖湖は水面の高さが一緒なことから地下でつながっています。また、富士五湖に流れ込む川はなく、富士五湖の水は主に湧き水で、フジマリモは湧き水で転がされるため丸くなります。